

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	上智大学	拠点番号	E 2 1
申請分野	学際・複合・新領域		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	地域立脚型グローバル・スタディーズの構築 Establishment of Area-Based Global Studies		
研究分野及びキーワード	＜研究分野： 地域研究＞(グローバル・イシュー)(地域間比較研究)(文化遺産)(市民社会)(ガバナンス)		
専攻等名	外国語学研究科 地域研究専攻・国際関係論専攻・比較文化専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 石澤 良昭 教授 他 23名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成16年1月現在)を抜粋

＜本拠点がカバーする学問分野について＞

各地域が政治・経済・文化的に様々なプロセスによって繋がれたグローバル化した社会として現代世界を捉え、人・思想・技術・金融などの超国家的な流れに注目する新興学際的学問分野であるグローバル・スタディーズの中で、こうした世界大の動きと地域社会・歴史との間の相関関係に焦点を絞る地域立脚型グローバル・スタディーズを構築する。

＜本拠点の特色及びその目的等＞

ディシプリンの基礎とインターディシプリナリな研究、バイリンガルな研究教育環境、海外研究協力拠点ネットワークなどを特色としたグローバル・スタディーズ研究科(仮称)への改組を通じて、国際競争力のある若手研究者の育成を行う。アジア・中東・ラテンアメリカ地域での国際関係・社会発展・文化遺産などにおける学際的な研究教育実績を基盤に、日本初のグローバル・スタディーズ研究教育拠点を形成し、世界をリードする研究成果と創造的人材を送り出す。

＜COEを目指すユニーク性＞

グローバル・スタディーズはきわめて今日的な研究でありながら、現時点では国内に根付いているとは言いがたい分野である。しかも、本拠点が遂行する各地域の精細な地域研究に立脚した研究のあり方は、世界に類例を見ない。この点で、日本・アジアに根ざし、すでにアンコール遺跡国際調査団や英文学術誌『モニュメンタ・ニッポニカ』により世界的に知られている本学は地域立脚型グローバル・スタディーズを発信することのできる数少ない研究教育機関であり、その意義はきわめて大きい。

＜本拠点のCOEとしての重要性・発展性＞

地域立脚型グローバル・スタディーズの構築は、従来の地域研究や国際関係論の枠組みを超えた学術的新地平を切り拓くことにほかならない。本拠点では、地球規模の現象の展開を学術的に解明する関心と、そうした現象に起因する問題の現実の解決策を模索する実用的な態度との双方を並立させ、教育面においても、グローバル・スタディーズを軸に外国語学研究科を再編し、理論から応用にわたりいくつかのコースを設けて、研究・応用の両面での世界的な人材養成を行う。

＜本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果＞

グローバル化と地域社会との相関関係に焦点を置いて、政治、社会経済、文化の3側面と理論的統合に関わる研究成果を日英両語において順次刊行する。教育面では、平成18年度のプログラム終了までに、現在の地域研究・国際関係論・比較文化各専攻をグローバル・スタディーズ研究科(仮称)へと改組し、将来にわたり持続的に若手研究者を育成する世界的研究教育拠点の形成を行う。

＜背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等＞

地域研究はこれまで、地域の固有性に理論的視野が限られがちであり、国際関係論あるいはグローバル・スタディーズは地域的固有性を捨象しがちであった。加えて、それらの学問の出自から、いずれもともすると西洋中心の視点に陥りがちであった。これに対し、本学が発信する地域立脚型グローバル・スタディーズは、当該の分野の研究が日本に根付かせ、かつ世界の学界潮流にインパクトを与え、社会的にも、国内外における地球規模問題の適切な理解の推進に資することが期待される。

機 関 名	上智大学	拠点番号	E 2 1
拠点のプログラム名称	地域立脚型グローバル・スタディーズの構築		

◇ 21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、下記のコメントに留意し、当初計画の適切なる変更が必要であると判断される。

(コメント)

アンコール遺跡を中心とするカンボジアにおける上智大学の地域研究は、優れたものとして評価されてきている。本計画は、これを他の地域におけるものと総合し、新しい視点の研究教育拠点を目指したものであるが、拠点のプログラム名である「地域立脚型のグローバル・スタディーズ」とは何か、「グローバル化のもとにおける地域研究」とはどこが違うのかなどが未だ明白ではなく、また、カンボジアは別として、他大学等における地域研究に比してどこが特徴であるかも、まだ見えてこない。

したがって、当初計画を練り直し、グローバル・スタディーズの概念を明確化したうえで、地域研究からそれを構築する方向を強く考え、それを進めるなどの方法によって、拠点形成を進めることが肝要であり、その線に沿った具体的な成果を挙げられたい。